

TS 孕み姫

～元勇者さんが
オークの群れの
お姫様♀になるお話～

原作:舞鶴やちよ 作画:れいとらみかん
企画:あむあいおかし製作所



中央山脈・
山中

何だコレ…
どうなって
んだよ…ッ

どうして…
オレの体が女に…!?

どうも…うも
何も、ねえ…

ああ…

TS 孕み姫

～元勇者さん♂が
オークの群れの
お姫様♀になるお話～

原作:舞鶴やちよ 作画:れいとうみかん
企画:あむあいおかし製作所



私達、
パーティー
抜けまーす



んなっ…!?

しっかし、
ホントに
ラッキーねー!

性転換の術式に
あっさり
引っかかって
くれるなんて

お前への好意を
逆手に取った
作戦勝ちだろう…

…とんだ
悪女だな



無駄口叩いて
ないで、さっさと
やるわよ?
装備と有り金も
全部頂いていくの

待って
くれ…!

ア



二人とも…
どうしてこんな
ことを

オレ達、同じ道をゆく
仲間だったハズじゃ…



…悪く
思わんで
くれよ

アナタとの旅は
楽しかったけど、
所詮
私達は陰の住人

ダメだ…っ！
胸がジヤマで…
力も思うように、
入らな…っ！

光の道をゆく
アナタと
居るとね
——
思い知ら
されるの

所詮、人は
変われない…

どこまで
行っても、日陰者は
日陰者なんだ

ってね



…まずいな。
ここら一带は
オークどもの巣窟だ

長居は無用ね。
さっさと
退散しましょ

…それが狙いで
ここまで連れ
込んだのだけど

命だけは、
取らないでおくれ。

アナタの言う
天命とやらを、
信じてみることにね

さよなら。
愛しの勇者さん

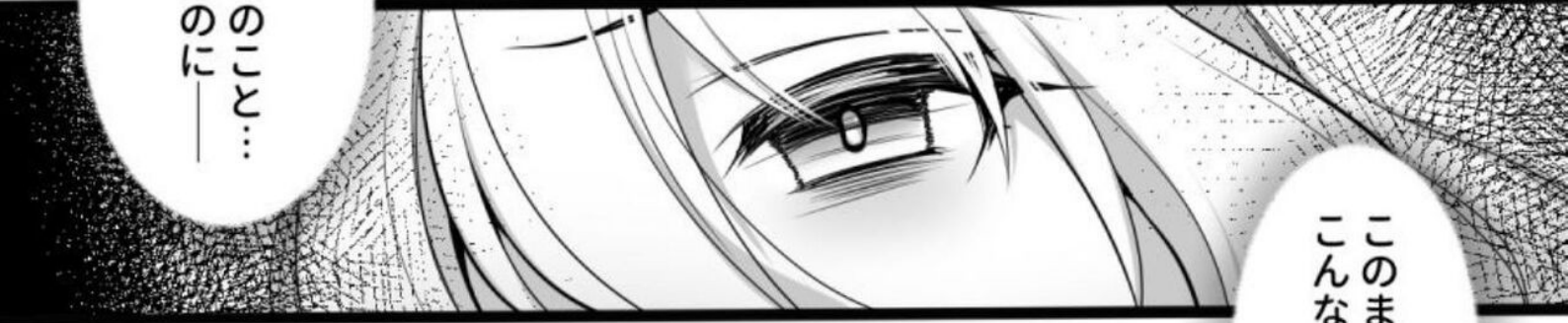


動クナ。

テイコウ、
自殺ト同ジ。

ま、待て…

お前たちのこと…
信じてたのに—



このまま、
こんなところで…

見放される
…なん…て…

オマエ…
何故アンナ
所ニ居タ。

…さあな？
知って
どうするんだ

生意氣！
コノメスガキ！

人間、俺たちノ
仲間、大勢
殺シテキタ！

殺セ！

犯セ！

ブツ殺セ！

ああ…いつそ、
殺してくれた方が
マシかもな…

お前たちがオレを
蹴るのも勝手だ。
痛みには慣れてる



信じていた仲間に
裏切られ、ひ弱な
体にされた拳句

こっぴどく
棄てられた、哀れな
勇者のなれの果てだ。

—
待テ。



—今、
勇者、ト
言ったナ?

族長!

安らかに
死ねるなんて、
思っちやいないさ。

勇者、ト
ヤラ…

才前ガ、真に
天命ヲ受ケル者
ならバ——

才前ハ我らノ、
救世主トなる
ヤモ知レン。

トナレ

トナレ

才前——

我が一族の
「孕み姫」、
トナレ。



長老の話では、
こうだ――

……
「孕み姫」、か。



オークは元来、
妊娠期間が人間より
ずっと短く
多産でもあるが……

その分、女の数が
きわめて
少ないらしい。

おまけに、人間との争いで
大きく数を減らして
しまったため、

方々の村から人間の女を
攫って子を孕ませ、
凌いでいたようだ。

各地で断絶の危機に
瀕する一族を、
少しでも永らえ
させるために――

：事実、
我が一族ニハ、
モウ女ガ居ナイ。


女ノ子供ガ
生マレなケレバ、
隣山トノ里子
交換もデキナイ。

奴らの中にある
憎しみの原因は
それか…


どうして種族を挙げて
人間を襲い続けるのかも、
何となくわかった。



オークも人間も、
元は古代エルフ
からの派生種だ。



混血したときは、
より魔性の強い、
オークの血が優性となる。



だが、人間の女を
攫ってきたとて、
1人産ませられ
れば良い方…

大抵は胎児の急な
成長に耐えられず、
母体ともども衰弱死
するのが普通だ。



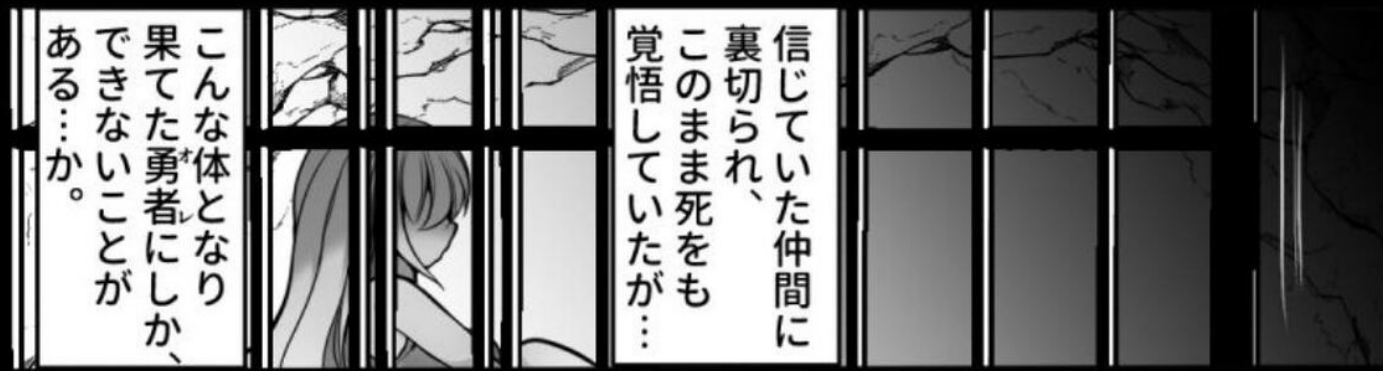
シカシ、
才前ナラ…
天命を授カリシ、
勇者ノ母体デ
アレバ…





ソノ時ハ、
お前ハ死ヌ。

オ前ノ望ミ
通りニ、ナ。



信じていた仲間に
裏切られ、
このまま死をも
覚悟していたが…

こんな体となり
果てた勇者にしか、
できないことが
ある…か。



連中は結果的に、
オレを殺さなかった。
少なくとも食事を
くれたし、腹を割って
話もしてくれた。

この身ひとつ、
捧げるだけで救える
何かがあるのなら—



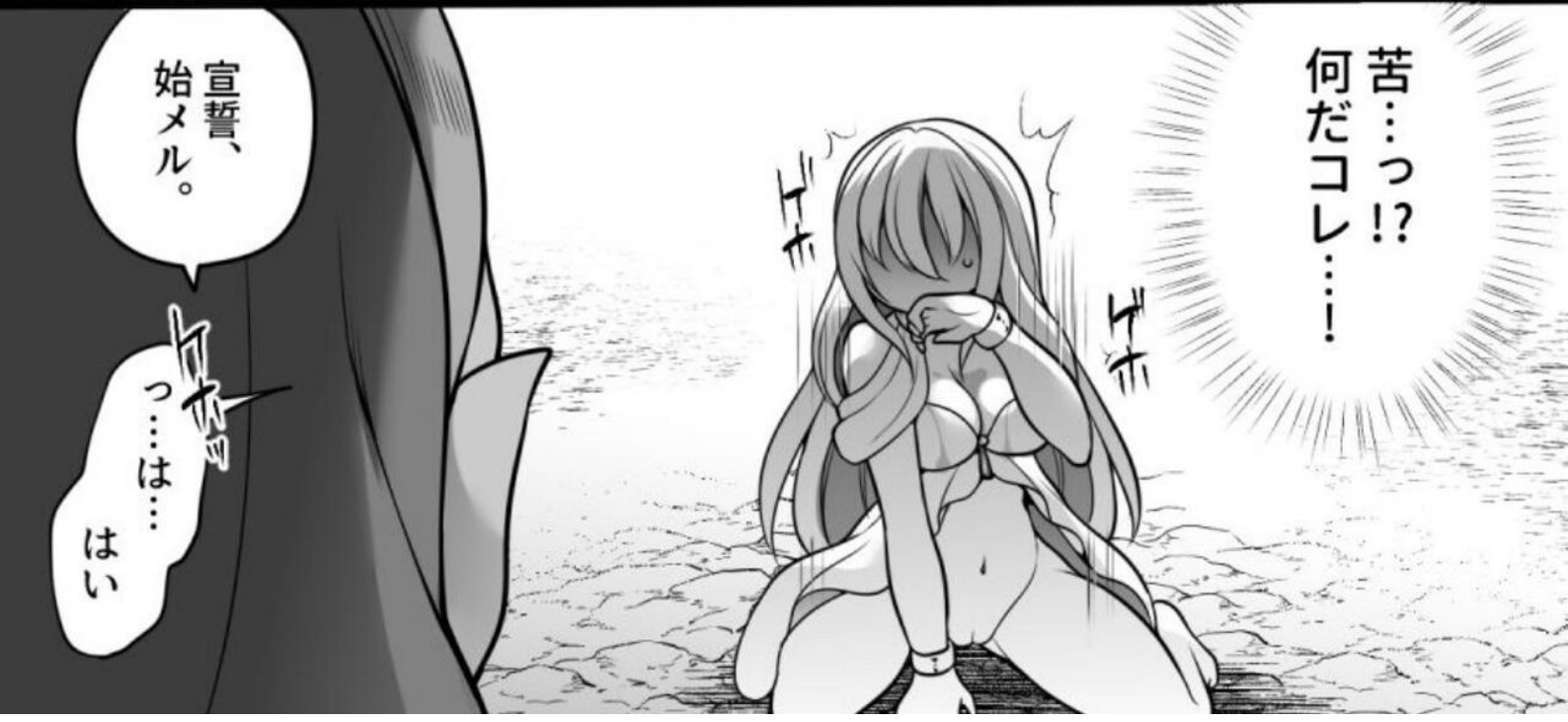
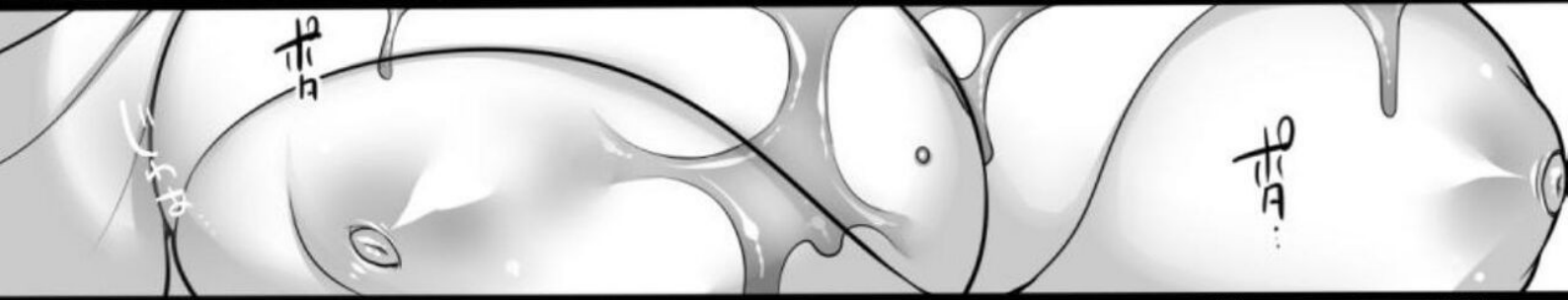
— やってやるわ

孕み姫でも
何でも…な



戲式を
始メル。

はこ...



苦：っ!?!
何だコレ...!

宣誓、
始メル。

っ...は...
はい

ワタシは――

私は、
一族の者として……

名誉ある、
「孕み姫」として……

生涯かけて、
その役割を
果たし続けること――

今、ここに
誓います。

何
だったんだ… さっきから、
あの液体… 頭がフワフワ
してきて…

胸が、
お腹の奥が…

急に熱く、
燃えたぎる
ような感覚…

何だ、この
感じ…ッ。

体も
ジンジンする…

オ前、初物ハツモノ
…ダツたナ？

少し、慣ラ
シテやレ。





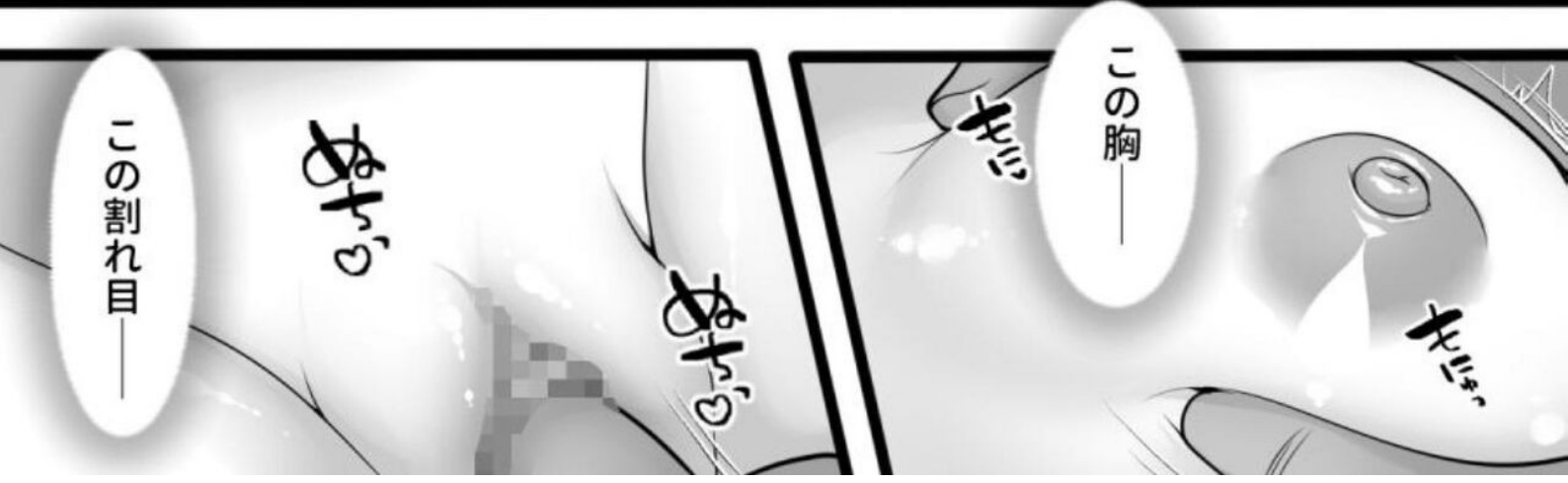
今の
オレの声!?

こんな、
女みたいなの

あ…そっか…

オレの体、
男じゃなくなって
たんだ

—
今更、だよな。



—
この胸

—
この割れ目

ここにきてから、
まるで意識する
余裕もなかった、

オレの中の
「女」の部分。

一度意識した途端——
疼きがどんどん、
膨れ上がってくる…ツ。

撫でられる度に、
身も心もヒリヒリと
痺れて——

内側からジワジワ
溶かされていく
みたいだ——

これが…
女の快感、って
ヤツなのか…？



コレが…
オークの…!!

大きさも、何もかも…
人間のソレと、
全然違う…!!

コレが今から、
オレの中に…

ぎゅん

ぎゅん

考えただけで、
恐怖で心が
すくむのに—

それ
なのに—

は…

は…

は…

それ
なのに—!!

は…
は…

カラダが、
いうことを
聞かないっ

ひゃっ

一人デ盛ルのハ
良イガ…

戲式ヲ
忘レルナ。

才前ハ、
俺達ノ何ダ？

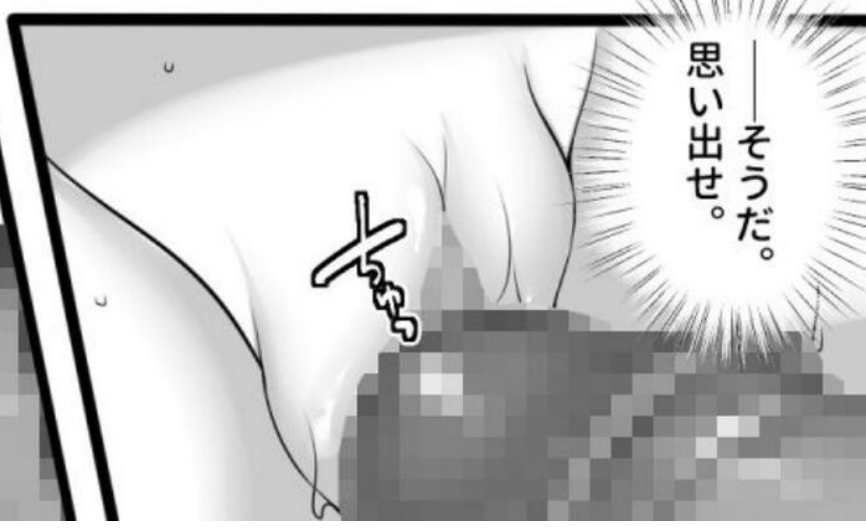


はい…っ♡
わ、私は
皆さんの

— 孕み姫…です♡



今のオレの
役割は—



— そうだ。
思い出せ。



「孕み」
姫…!



コイツらの精を受け止め、
仔を孕む



ただそのコト以外、何も
考えるな

…は…っ



一突きされる度に、
お腹の奥が疼いて…

キョんキョんするの、
止まらない…ツッ♡

「初めての」
カラダで、
一方的に激しく
されて—

身も心も、
ぐちゃぐちゃに
されて…っ♡

もうすぐアレに
孕まされるんだ、

っっっ

そう
思うだけで…

体の奥が、もっと
もっと…っ、て
求めだしてきてるの、

自分でも
わかる…っ♡

奥まで乱暴にされて、
どうしようもないぐらいい、
狂わされてるところ、

コイツら全員に
見られてるのに…

見られてる
のに…ッ♡



気持ちよくなって
気持ちよ過ぎて♡



ずっとずっと
気持ちいいの
溢れて…



コイツらの孕み種、
欲しくてほしくて、
堪らなくなってる…♡



あ、そっか


これが今の、
オレの役割

これが今の、
オレの使命

もう、
止まらないっ♡




これが——
「ワタシ」の——♡



その命を賭して、
人々の願いを叶え、
救いをもたらすことを

——今ここに
誓います。



——おめでとう、
新たなる勇者よ。

はい
私は、天命に
選ばれし者として、
名誉ある勇者の
称号をつかまつり…



お前ノ役目ハ、
コレカラダ。



何ヲ呆けて
イル？



一番強イ子種を
孕ムマデ、全員ノ
相手をスル。

ソレガ、
「孕み姫」ノ役目。



♡好…♡



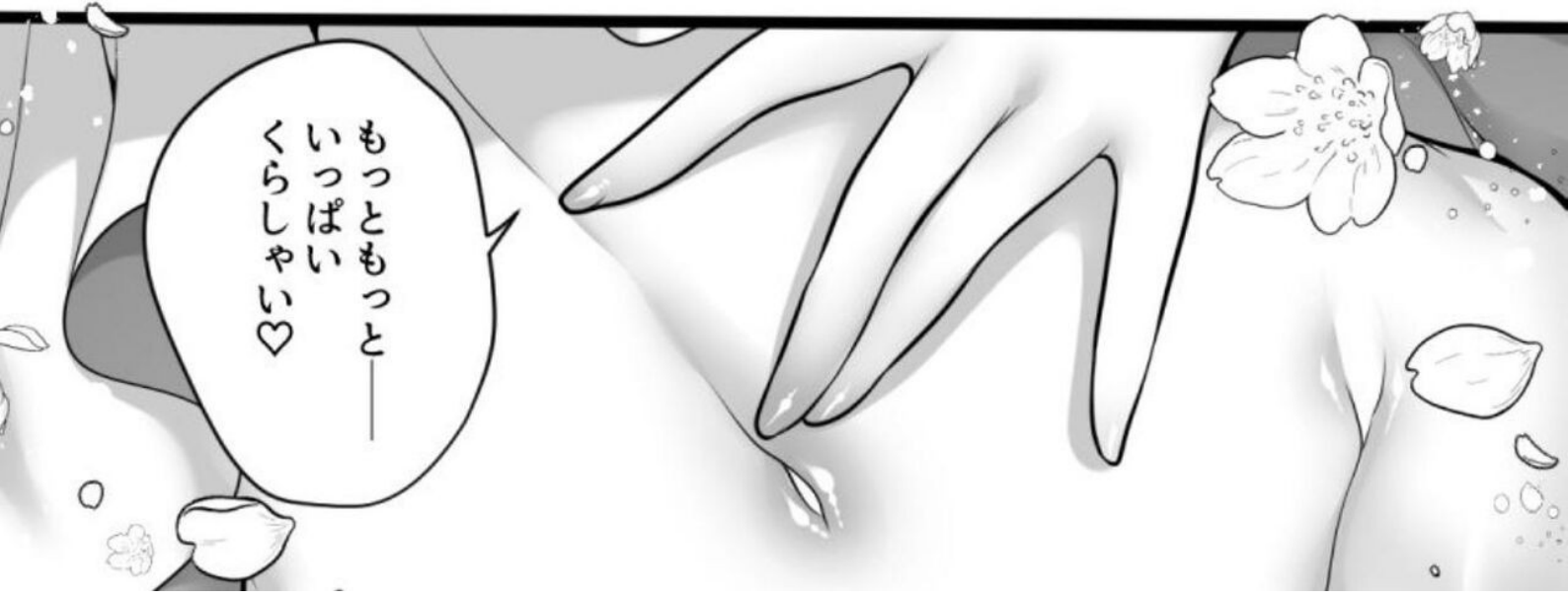
ア…♡



ア…♡



みなしやんの
子種、
私の中に…



もっともっと—
いっぱい
くらしい♡

うそ——。

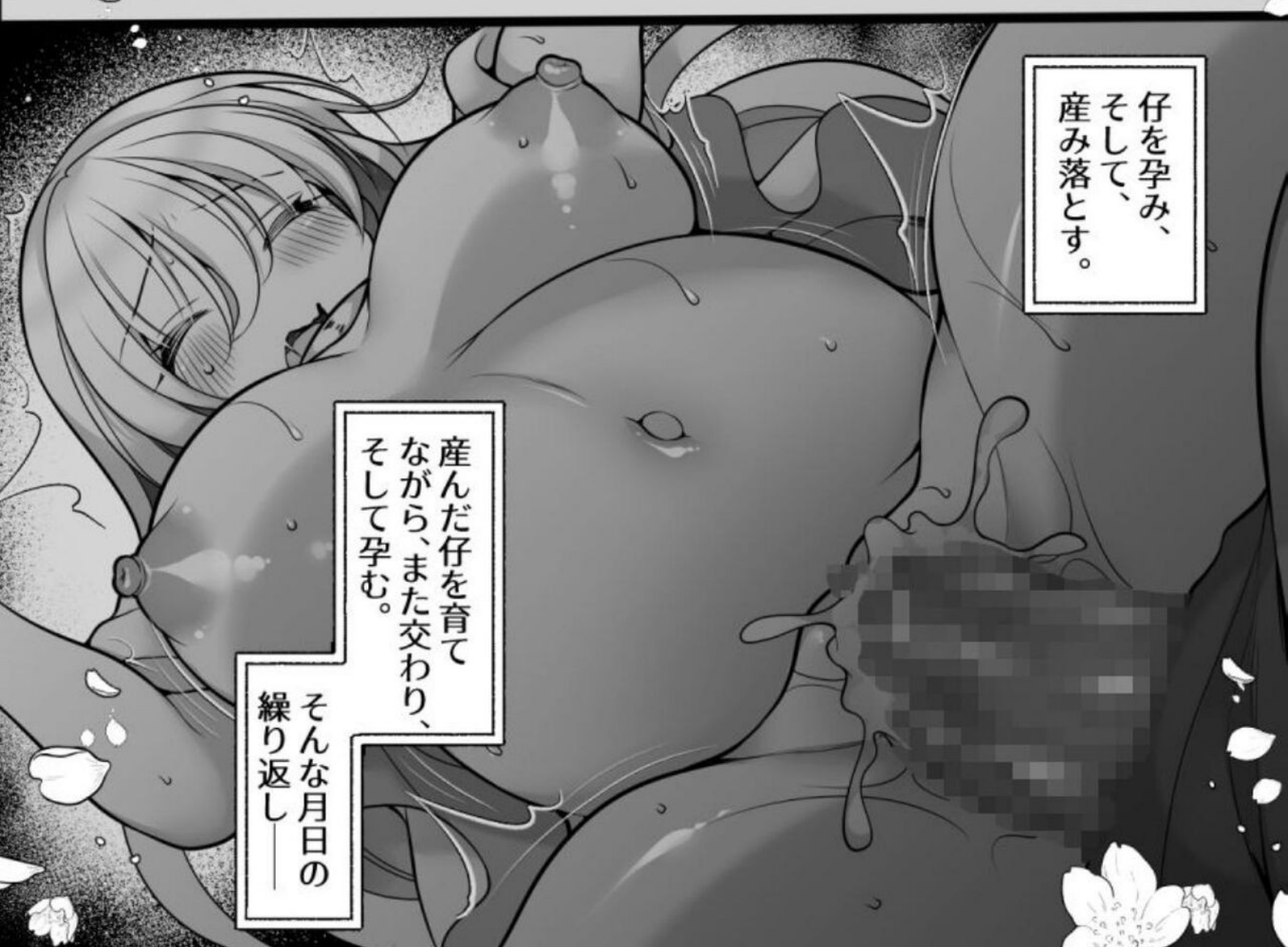
一人の勇者が、
オークの
「孕み姫」となった。





来る日も、来る日も、
彼らの精を――

貪欲に、
その子宮に
受け止め続け――



仔を孕み、
そして、
産み落とす。

産んだ仔を育て
ながら、また交わり、
そして孕む。

そんな月日の
繰り返し――

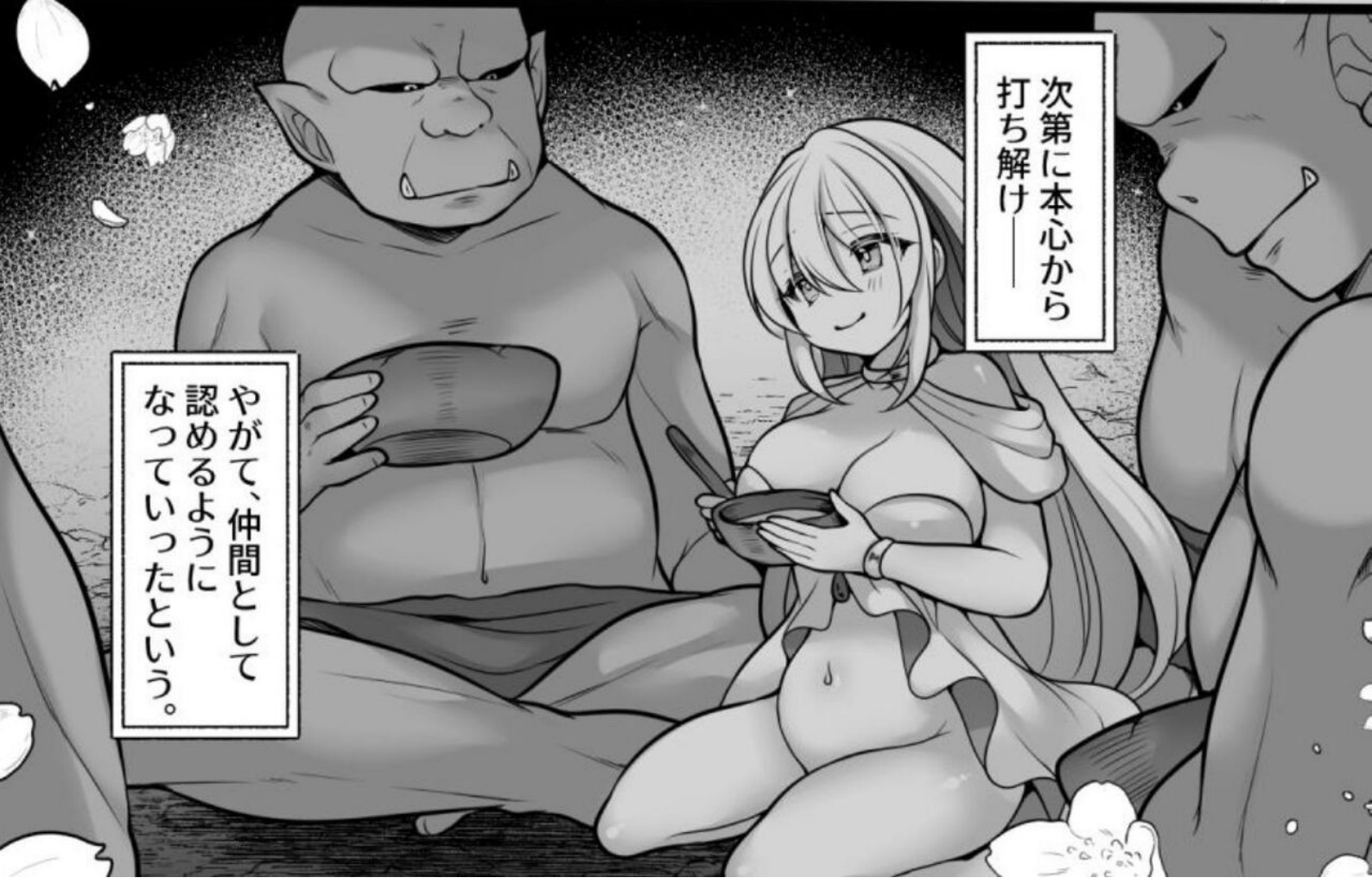


か弱いその身で、
一心にオークと
子供達のために
尽くすその姿に――



当初、
人間への積年の
わだかまりから

彼女を孕み袋
同然に扱っていた
オーク達も――



次第に本心から
打ち解け――

やがて、仲間として
認めるように
なっていたという。

時は流れ――

えー、今回の品は……と。

竜骨10、薬草酒30、
竜茸酒22……

それから、
ココトリスの
目玉を一つ……

間違いない。
これで全部だ。

アリガト
ゴザマス。
420G、デス。

おう。
まいどー

……まさか、人間と
オークの間で、
交易ができちまう
時代が来るなんてなあ

これも、ヤツらの
「姫様」ってやつのお陰かもな

ひめさま？

おうよ

なんでも噂では、
とんでもなくべっぴんな
人間の女だって
いうじゃないか

何？
人間の女が？

そうだ

その姫様の噂と、各地の
オークが人を襲わなくなった
時期：どうも同じくらい
だって言うじゃないか

へー

大した
女だぜ。

いったい何者
なんだろうな、
ソイツ

なんだか、歴代の
勇者様みてえな
話だなあ

当代は未だ
行方知れず
だったのによ

偉業をなした
オークの姫君、
かあ

是非とも一目、
会ってみたい
もんだなあ

おっぱい

おっぱい

おしまい